

大峰

第97号

令和4年3月31日発行
大峰寮・保護者会・後援会



笑顔の花が
たくさん
咲きますように

『新年度を迎え新型コロナ禍の中での福祉サービスに思う』

大峰寮寮長 久保田 雅勝

心から願う終息

うらかな春の訪れとなり、新年度を迎え中々収束の目途がつかない中、施設利用者にはなるべく普段と同等の対応をしたいと考えてサービスを行っております。

しかし、職員も限度があり、そもいかないう事が多々あります。

施設には、入所者、短期、通所の方々が大峰寮を利用しており、その人たちに心配をかけずにサービスを行うことは、今のコロナ禍では職員も心苦しく感じていると理解しております。あれこれと工夫をしながら利用者のストレスを少しでも軽減するためには頑張っており、職員もストレスが大きく身体に負担がかかっております。早く収束を願うのみであります。また今年もこのままの業務でいくしかないのか、数えれば悩みはいくつもあります。全部解決できるわけはありませんが、何か解決の目途になればと思います。早く心が休まる日が来ることを願うのみであり、普段の生活に戻ることが、利用者の幸せに繋がる事は当たり前であります。またプロジェクトを立ち上げ色々検討しておりますが、コロナ禍で計画が進まない状況であります。

今後は、新たな事業を模索、検討し進める方向で考えていきたいと思っております。そして新型コロナ終息までは、利用者、保護者、後援会、職員の皆様方の協力なしでは運営を行うことは難しいことであり、新年度こそは終息を期待し、皆様にこれからもご協力をいただき安心・安全な施設として運営していきたいと考え結びの挨拶といたします。

新任課長の挨拶

地域支援課長 福地 徹

日頃より大峰寮に對しまして、関係者皆様方の温かいご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

当施設では令和4年度より新たに「地域支援課」が設置され、4月1日付けで地域支援課長を務めさせていただきますことになりました。

地域支援課が設置されるに至った経緯ですが、当法人では兼ねてより短期入所、共同生活援助、相談支援に加えて平成28年度に開設した生活介護（通所）を地域支援事業として展開しております。いずれも本体業務が主である支援課との兼務としてサービスの提供を行ってまいりましたが、業務の煩雑化の防止を図り、より専一的に業務の遂行とサービスの提供が可能となる事を目的に支援課から分割して新たに新年度より地域支援課設置の運びとなりました。今後もこれまでと同様のサービスが提供できるよう努めて参りますのでよろしくお願ひします。

さて、昨今の地域支援の動向や課題に目を転じてみますと、制度面では地域生活支援拠点等事業でしようか。新発田市の第6期障がい福祉計画にも列記されており、新年度4月1日運用開始を目指して調整が進められています。また、利用者様の抱える課題としましては65歳問題が、ここ数年を経て多く浮上してきておりその対応も求められています。

今後とも国の動向を見守っていかなければならないと考えております。いずれにしましても、しっかりと期待に沿えられるよう頑張りたいと思ひます。

新しい保護者会へ

保護者会係 遠藤 尚

新型コロナウイルスが猛威を振るい、大峰寮での当たり前の様な日常が一変し、行事の縮小化、外出や外泊の制限、落ち着いてきたかと思えば、第6波、新種株と先が見えない状態が続いているのが現状です。

大峰寮では利用者様の安全と健康を第一に考え、職員が創意工夫をし一丸となり、日々利用者様の支援を行っております。

そんな中、保護者会では今年度から保護者会の会則及び内規が変更になりました。

遡ること昨年度の初め、係り職員で開所当時のままの会則から次の時代を見据え、今の時代にあつた会則にしようと思ひ始めました。その背景としては、保護者の世代交代、利用者様の高齢化、複雑な会則、現在の会則では当てはまらない事例が多くなつてきたというのがあります。そういったことを踏まえ、係職員で検討し、寮長、支援課長の意見を伺いながら、今年度の三役会議、保護者役員会、保護者総会にて無事、会則及び内規を変更することが出来ました。残念ながら、保護者総会は新潟県内のコロナウイルス感染者が増えてきたという事もあり、書面での決議でしたが、全保護者様より同意を得る事が出来ました。会長並びに役員の皆様そして、保護者様には感謝を申し上げます。

さて、主な変更内容としましては

- ① 地区分けの再編成
- ② 役員・事務局の負担軽減
- ③ 会費の減額

④ 柔軟な対応ができる会則・規則となります。今年度より新たな保護者会がスタートしました。昭和から平成、平成から令和へ大峰寮も時代と共に変化しています。引き続き、ご支援の程よろしくお願ひ致します。

新型コロナウイルスによる世界中でのこの状況が一日でも早く解消され、平穏な日々が戻りますようお祈り申し上げます。

ボランティアの皆さまへ

ボランティア係 滝沢優太

新型コロナウイルスが猛威を振るい、大峰寮においてもボランティア団体の皆さまを含め、訪問者の受入に制限をかけざるをえない状況が続いております。そんな中、ボランティア係として痛感させられるのは、今までいかに大峰寮がボランティア団体の皆様のお力添えを賜っていたのかということ。敷地内の除草作業をはじめ、グラウンドゴルフや、茶道クラブ等々、職員の力だけでは行うことが出来ない部分をコロナ禍が続いている現在、より強く実感させられております。

長年お世話になっておりました複数のボランティア団体が、高齢化を理由に解散されるとの知らせが届いております。例年開催しておりましたボランティア懇談会も、今年度も感染防止の観点から開催を見送らせて頂くこととなり、解散される諸団体の皆さまに直接感謝の気持ちをお伝えすることが叶わず、残念でなりません。障害者支援施設という性格上、どうしても閉鎖的になってしまいがちですが、ご利用者にとって、ボランティア団体の皆様のご活動はもちろんのこと、訪問自体が非日常を感じさせてくれる欠かせないものだったのだと確信しております。いつか大峰寮に日常が戻った暁には、どうぞ団体の垣根を越えて足を運んで頂けることを心よりお待ちしております。

最後になりましたが、この場をおかりして長年お世話になりました茶道クラブ様、山志の会様、熟年の会様に感謝の意を表すると共に皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

「生活介護通所部の二年を振り返って」

上山 恵康

生活介護通所部はお年寄りの利用する施設にすると、デイサービスのようなところで、入浴したりテレビ視聴したりしながら気ままに過ごして貰う場所になっていきます。

私のところに通所部の一年を振り返る原稿を書いてくださいと依頼がありました。そして、いざばん最初に思いついたのは、やはり新型コロナウイルスの事でした。通所部を利用されている方々はご家族で出掛けたり、他の施設利用で出掛けたりして、外出する楽しさを知っていらっしゃる方がほとんどです。年に何回かの大峰寮通所部での外出も、とても楽しみにしていらっしゃいます。その楽しさを新型コロナウイルス感染症の流行で我慢しなければならなくなってしまうました。二年間も我慢しています。バーベキューやサクランボ狩りは、人との間隔を保ち屋外で行う事が出来ましたが、スーパーマーケットやショッピングモールでの買い物や飲食は中止しなければなりません。利用者の方々は「コロナだからしかたないよ」とおっしゃってくれます。ですが、かなり我慢して下さっているのだと思います。バーベキューやサクランボ狩りも楽しいですが、何でもそろそろ何でも買えるショッピングモールで、食べたいもの飲みたいものを選んで、人がたくさんいて賑やかなフードコートを楽しみたいと思っっている利用者様も多いのでは...と思っております。

四月から新しい年度が始まります。三回目のワクチン接種と新しい治療薬で、気軽に人混みに出掛けられる楽しい年度なることを願っています。

メリークリスマス



毎年大峰寮にご支援を頂いている神田清栄様より大峰寮の皆さんにクリスマスプレゼントを頂きました。沢山のお菓子がラッピングに包まれ、利用者の方々はとても喜ばれていました。お菓子は1回では食べきれないほどでしたね*

